

令和3年度
自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年3月31日

学校法人正和学園 認定こども園 正和幼稚園

※新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から書面のやり取りにて実施

1. 園の教育目標

1. それぞれのいのちを、こころ、からだ、自然から感じ取り大切にします。
2. 居心地のよい、安心できるこの場所で、「私は、私である」ことを実感します。
3. 社会の一員として、つながりあい、影響をあたえあいます。
4. 相手の思いを聴き入り、自分の想いも伝えます。
5. 試して、工夫して、つくりだす経験をします。自分なりに納得するまで探究します。

2. 本年度の学校評価の具体的な目標や計画

1. 地域がつながる居場所づくり…「ゆるやかフェ@原町田」（月2回）「ゆるやかフェ@せいわようちえん」（2ヵ月に1回）「ポレポレの会」（保護者が自由に参加）など充実させ、保護者がほっとできる居場所をつくる。「ころころひろば」（未就園児親子あそび会）の多様な形態のアプローチを実践する。
2. 対話を重視する… 朝や午後のサークルタイムの充実。子どもたち自身が、耳を傾ける経験を積み重ねる
3. 探究型の保育… 子どもたちの興味関心に目を向け、地域の専門家（ゲストティチャー）も加わるなど地域の方々とも連携をとりながら、探究型保育を進めていく。

3. 評価項目の達成及び取組状況

評価項目	結果	理由
1. 地域がつながる居場所づくり	5	地域の自然環境の活用、保護者の参加などに現れている。地域がつながる居場所づくりでは、子育て応援拠点として子育て世代だけに限らず、多世代や子育てを応援したい人たちが集う場作りが実践され、コロナ禍において孤独な子育てに陥りやすい乳幼児を育てる家庭の支援が行われた。
2. 対話を重視する	4	自然体験における子ども同士の話し合いやコミュニケーションを観察すると日常的な対話の基礎が感じられる。園庭には子どもが集いサークルになって対話できる空間が設定されており、子どもたちは対話をすることで自分たちの意思で何かが始められることを多く体験できた。
3. 探究型の保育	5	自然体験における子ども達の自主的な取り組みに現れている。保育の中で様々な素材と子ども達の出会いを作る環境設定がされたことにより、素材との出会いにより心動かされ探求心を持って遊びを展開していく遊びが、個人のものだけでなく集団での探求となる保育がなされていた。

※結果について

5	十分達成されている
4	達成されている
3	取り組まれているが、成果が十分ではない
2	取組が不十分である
1	取り組んでいない

4. 自己評価で設定した目標・計画・評価項目の設定は適切であったか

重要な事項が網羅されており、適切な設定と思われる。開放感のある園舎と自然豊かな園庭が子ども達の心と身体、そして人間関係の構築に大きく役立っている。職員はもちろんのこと、地域の支援も取り入れることで、子どもたちが自らの意思で関係性を学び、創造性に富んだ成長の場となっている。そうした環境を生かした目標や計画の立て方は、評価に値し、適切であったと思われる。

5. 自己評価の結果の内容は適切であったか

適切であった。日頃の先生方の子ども達への向き合い方、職員自身の資質向上、職員間コミュニケーションなどの現状が書かれていて理解しやすい。子育ての現場は常に課題が尽きることはない。100人の子どもがいれば、100通りの方法を見いだす必要があるといえる。そうした中、それぞれの個性を失わせ得ることなく導いていくことの大切さを園全体で共有し、常に改善点を見直しながら子育てに従事出来ている点に於いて、適切な自己評価が出来ていると思われる。

6. 自己評価に対して今年度取り組むべき課題は適切に行われているか

地域、対話、探究といった文言が随所に見受けられ、本年度に設定した課題を意識した保育・業務への取り組みが行われていたことがうかがえる。自己評価をすることで自らの課題を明確にし、常に改善に取り組もうとする姿勢が見られることから、課題は適切であると思われる。

7. 今後取り組むべき課題は適切に設定されているか

時代の要請を意識しながら、自園の環境を最大限意識し2021年度の取り組みをより発展させた内容に設定されている。自己評価をすることで自らの課題を明確にし、常に改善に取り組もうとする姿勢が見られることから、課題は適切であると思われる。

※2022年度の重点項目

2022年度 正和幼稚園は、「こどももおとなも 自分を出し合える場を生み出す存在」でありたいと思っています。そのために、「丁寧に聴き合い、それぞれの探究を積み重ね、発信すること」を大切にしていきます。

*インクルーシブ保育の充実

2022年度は、インクルーシブ理解促進も意識し、下記枠の対象者2名を雇用。継続的な雇用を目指す。園児・ご家庭・職員意識も高め、多様性を認め合える園の質向上に努める。

- ・海外出身者雇用 アフガニスタン人
- ・障がい者雇用 1名継続勤務（2021年度より）

*ゆったりラウンジ@ラウンジ原町田（地域の居場所づくり） 週3回（火・水・金 10-13時）

2022年度、子育てひろば事業Ⅱ型（都単型）を子育てひろば事業Ⅲ型（基礎型）に認められるように地域活動の実績をあげていく。

- ・つながり一時保育との連携 子どもを預け、ラウンジで仕事も可能
- ・マイ保育園登録者数 目標 100名
- ・保育相談表 できる限り漏れがないように記載することに職員も慣れ、徹底する

*木育事業

- ・ティピの帆布整備 縫い目に沿って破けてしまう現状の打開
- ・園庭変化 一人ひとり多肉植物等が植えられる場所を兼ね備えた壁面
戸外でも子どもたちにすぐに木工等に取り組める場の整備
- ・室内変化 落ち着けるスペースを意識した絵本棚をつくる
- ・アーケードのスカイデッキ ウッドデッキをつくり、より日常的なスカイデッキの活用を目指す